

# 読書のすゝめ

その28

H 28

2 / 26

## 県東地区読書会 課題図書

来年度（6月頃）、県東地区図書委員会での課題図書三冊が決まりました。担当校と作品

- ① 『タスキメシ』 額賀澤 ↓ 麻生高校
- ② 『羊と鋼の森』 宮下奈都 ↓ 潮来高校
- ③ 『本屋さんのダイアナ』 柚木麻子 ↓ 鹿島高校

『タスキメシ』の作者は行方市（旧麻生町）出身です。本作がデビュー3作目となりますが、25歳という若さ！今後の活躍が期待される方です。『屋上のウインドノーツ』『ヒトリコ』もそれぞれ高校生を主人公としたもので、みずみずしい感性と、等身大の自分を重ねて読むことができるおすすすめ本です。



『タスキメシ』 額賀澤 小学館  
陸上の名門高校で長距離選手として将来を期待されていた眞家早馬（まいえそつま・高3）は、右膝の骨折という大けがを負いリハビリ中。そんな折、調理実習部の都と出合い料理に没頭する。一学年下で同じ陸上部員の弟春馬、陸上部部長の親友助川、ライバル校の藤宮らは早馬が戻ってくることを切実に待っている。しかし、そんな彼らの気持ちを裏切って、心に傷を抱えた早馬は競技からの引退を宣言する。それぞれの熱い思いが交錯する駅伝大会がスタートする。そのゴールの先に待っているものは……。

と生き様が熱く描かれる。青年達の挫折、友情、兄弟愛……。熱い涙、しょっぱい涙、苦い涙、甘い涙が読む者の心を満たします。スポーツ小説の枠だけにとどまらない人間ドラマ。料理を通して感じる人の温もり。そして……。現在青春まっただ中の世代にも、かつて青春だった世代にも、誰かのために料理を作っている世代にも、スポーツ観戦が大好きな人にも、多くの人の心に感動を呼ぶこと間違いなし！

『本屋さんのダイアナ』 柚木麻子 新潮社



「大穴（ダイアナ）」という名前、金色に染められたバサバサの髪。自分の全てを否定していた孤独なダイアナに、本の世界と彩子だけが光を与えてくれた。正反対の二人だけで、私たちは一瞬で親友になった。そう、「腹心の友」に……。自分を受け入れた時、初めて自分を好きになれる！ 試練を越えて大人になる二人の少女。最強のダブルヒロイン小説。一人の関係はどう変化するのか。中学でダイアナは公立に、彩子は私立に進学、彼女たちは疎遠になっていく。

「どんなに仲がよくても離れてしまうことってある。進学先や就職もそうだし、女の人は結婚や出産によっても環境が変わるから、友情がずっと同じ形で継続するわけではないからね。それに何かの拍子で再会したら、もとの空気にはっと戻ってくる。その後の二人を見てみたい！」と思わせる力作です。



『屋上のウインドノーツ』  
決して小さくはない過去の傷や挫折を抱えながら、懸命に吹奏楽に打ち込む少女と少年の奮闘の姿を爽やかに描いた第22回松本清張賞受賞作。



『羊と鋼の森』  
ピアノの調律師という職業。才能ってのはさ、ものすごく好きだっていう気持ちなんじゃないかなー。心に響く言葉がちりばめられて、おだやかに読める一冊。

『ヒトリコ』  
いじめをめぐる物語ですが、心を閉ざした少女に寄り添い正面から向き合って書かれた作品。郷土の方言（だっぺ等）もじつかくはべったい。